

海外安全対策情報（2016年7月～9月）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

- (1) ルアンダ市における犯罪件数は依然高い水準で推移しています。アンゴラ警察の警備強化により、検挙件数が上昇している可能性もありますが、この数値はあくまでも認知件数であり、報告されていない犯罪件数も多いことから、今後も十分な注意が必要です。
- (2) 夜間だけではなく日中であっても少年グループ等による車上荒らしや外国人を狙った強盗犯罪が多数発生しています。また現下の原油安の影響から、外貨（米ドル）の価値が高まっている影響で、身代金を目的とした外国人企業関係者を狙った誘拐も発生しています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 警備会社が発表した7月～9月のルアンダ市の犯罪発生件数報告によれば、総犯罪発生件数は1,711件（前四半期：1,674件）となっています。犯罪種別の内訳は以下のとおりです。

【一般犯罪・凶悪犯罪】（）内は前四半期件数

殺人	102件（190件）
強盗	196件（290件）
傷害	83件（前四半期発表なし）
強姦	146件（175件）

【その他】

火災	81件（271件）
逮捕者	1,037名（754名）
交通事故	488件（365件）
交通違反者	15,283件（12,906件）

2 在留邦人への被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

当該期間中における発生の情報はありません。

4 主な誘拐・脅迫事件発生状況

- (1) 9月19日、20日にそれぞれ、インド人経営者（カーボヴェルデとの二重国籍）

及びポルトガル人企業家が武装グループに誘拐された。場所の詳細は明らかにされなかったものの、報道によれば Belas 地区及び Viana 地区でそれぞれ誘拐された。

誘拐後に被害者家族に対して300万米ドルの身代金の要求がなされたが、身代金の支払いがなされることなく犯人の逮捕に至った。警察発表によれば、3人の犯人グループのうち2名がナイジェリア国籍、1名がコンゴ（民）国籍の不法滞在者で年齢は32～42歳。同グループはルアンダで発生した他の外国人誘拐事件にも関与したとされている。

(2) 9月22日、6人組の強盗グループが Vila Alice 地区 Tomás Guerra Da Cruz 通りのレストランに押し入り、女性店員2名を店内別室に閉じ込めてから売上金等を強奪。警察が現場を包囲したが、突入時には犯行グループが逃亡しており、足跡に関する続報なし。



5. 日本企業の安全に関わる諸問題

現時点では問題になるような情報はありません。